

⑦研究者を対象とした研究会、シンポジウム等の実施状況

シンポジウム		講演会 セミナー		研究会 ワークショップ		その他		合計	
件数	参加人数	件数	参加人数	件数	参加人数	件数	参加人数	件数	参加人数
2	41	8	197	2	56	3	236	15	532

5. 国際交流状況

①国際シンポジウム等の主催・参加状況

(1)主催状況

区分	平成 30 年度		
主催件数	5		
主催した主な国際シンポジウム等			
	開催時期	国際シンポジウム等名称	参加人数 (うち外国人数)
1	H30.7.12 ～7.13	International Symposium on Strategies for the Control of Ticks and Tick-borne Diseases in Thailand	30 (26)
2	H30.8.10	The scientific meeting of the NRCPD & former JICA participants, PhD student and collaborators in Vietnam	21 (20)
3	H31.1.22	Joint Seminar between SHVRI and NRCPD	18 (16)
4	H31.2.22	原虫病研究センター共同研究成果報告会	25 (10)
5	H31.3.5	コーネル大学寄生虫学関連教員と原虫病研究センターならびに関連教員との共同研究会	31 (22)

(2)参加状況

区 分	平成 30 年度		
参加件数	9		
参加した主な国際シンポジウム等			
	開催時期	国際シンポジウム等名称	参加人数
1	H30.4.12	The first human babesiosis conference (成果発表)	1
2	H30.6.14	70th Annual Scientific Sessions of the Sri Lanka Veterinary Association 2018 (招待講演、成果発表)	3
3	H30.6.29	第4回非ツエツエ媒介性動物トリパノソーマ症 (NTTAT) 年次会議参加と OIE 陸生動物診断・ワクチンマニュアル改訂版作成に関する審議	1
4	H30.7.11 ~7.13	51st SSR Annual Meeting (成果発表)	1
5	H30.8.20 ~8.23	14th International Congress of Parasitology (招待講演、成果発表)	15
6	H30.10.29 ~11.1	第67回アメリカ熱帯医学会 (成果発表)	1
7	H30.12.2 ~12.4	The 3rd International Conference on Non Tsetse Transmitted Animal Trypanosis (成果発表)	1
8	H31.2.11 ~2.14	iCOMOS2019 (招待講演)	1
9	H31.2.26 ~3.1	USJCMSP International Conference on Emerging Infectious Diseases in the Pacific Rim (招待講演)	1

②国際学術交流協定の状況

協定総数	15						
締結年月	終了予定年月	相手国	機 関 名	協 定 名	分 野	受入人数	派遣人数
2008年 11月	2023年 11月	フィリピン	フィリピン大学マニラ校公衆衛生学部	MOA	原虫病	1	3
2010年 9月	2020年 9月	中国	中国農業科学院上海獣医学研究所	MOU	原虫病	4	4
2011年 9月	2021年 9月	中国	延辺大学	MOU	原虫病	0	0
2014年 5月	2018年 5月	スリランカ	スリランカ獣医学研究所	MOA	原虫病	0	6
2014年 5月	2018年 5月	タイ	ラジャマンガラ大学獣医学部	MOA	原虫病	0	0
2015年 10月	2018年 10月	インドネシア	サムラトランギ大学	MOA	原虫病	0	0
2015年 12月	2020年 12月	ケニア	ナイロビ大学	MOA	原虫病	0	0
2015年 12月	2020年 12月	ウガンダ	マケレレ大学	MOA	原虫病	0	0
2016年 3月	2019年 3月	フィリピン	フィリピン大学・セブ校	MOA	原虫病	2	2
2016年 6月	2021年 6月	ブルキナファソ	ワガドゥーグー大学	MOA	原虫病	0	0
2017年 2月	2022年 2月	南アフリカ	ノースウェスト大学	MOA	原虫病	0	1
2017年 2月	2022年 2月	エジプト	マンスーラ大学	MOA	原虫病	0	0
2017年 11月	2022年 11月	中国	中国青海獣医学研究所	MOA	原虫病	16	0
2018年 1月	2023年 1月	ブルキナファソ	国際湿地帯畜産研究開発センター	MOA	原虫病	0	0
2018年 5月	2022年 5月	フィリピン	セブ工科大学	MOU	原虫病	2	2
合 計						25	18

③国際的な研究プロジェクトへの参加状況

総 数	5		
参加期間	相手国・研究機関名	研究プロジェクト等の概要	関係研究者名
平成 25 年度～平成 30 年度	モンゴル・獣医学研究所	<p>プロジェクト名：AMED/JICA SATREPS モンゴルにおける家畜原虫病の疫学調査と社会実装可能な診断法の開発</p> <p>プロジェクト概要：トリパノソーマ病やピロプラズマ病等、多くの家畜原虫病は持続感染して慢性的に家畜の健康状態を悪化させる。国民の多くが畜産業に従事するモンゴルでは、特に深刻な問題となっている。本研究では、トリパノソーマ、ピロプラズマ野生株とそれらを媒介するマダニの分布マップ作成、原虫野生株の抗原遺伝子解析に基づく簡単に迅速な診断キットを開発、そして今後の感染対策に備えた研究資源の確保を目標としている。</p> <p>参加国：日本・モンゴル 予算見込み額・3 億円</p>	横山 直明 菅沼 啓輔
平成 27 年度～令和元年度	ザンビア・ザンビア大学	<p>プロジェクト名：アフリカにおける顧みられない熱帯病（NTDs）対策のための国際共同研究プログラム・迅速診断法の開発とリスク分析に基づいた顧みられない熱帯病対策モデルの創成</p> <p>プロジェクト概要：本事業では、ザンビアにおけるアフリカ睡眠病(HAT)流行実態の調査、HAT 感染のリスクファクター分析による感染制御対策の策定、ICT HAT 診断キットの開発を最終目的として、HAT 流行実態調査及び HAT リスクファクターの収集と分析及び ICT HAT 診断キットの有用性評価と社会実装を担当する。疫学調査の実施とトリパノソーマ分離培養法の検討・試行、さらに動物トリパノソーマ病で有用性が示されている GM6 抗原を用いた ICT を HAT 診断に利用するための基礎的検討及び HAT 患者検体を用いた HAT 診断 ICT キット有用性評価の試行を行う。</p> <p>参加国：ザンビア 予算見込み額：2,470 万円</p>	菅沼 啓輔

参加期間	相手国・研究機関名	研究プロジェクト等の概要	関係研究者名
平成 28 年度～平成 30 年度	アジア、アフリカ、欧米諸国 英国・動植物安全庁 南アフリカ・オンデルステポルト獣医学研究所 インド・国立馬研究所 タイ・カセサート大学、チェンマイ大学、家畜衛生研究所 モンゴル・獣医学研究所 カナダ・食糧検査庁 米国・ワシントン州立大学 メキシコ・動物衛生研究所 アルゼンチン・農業技術研究所	<p>プロジェクト名：基盤 A 海外学術・ピロプラズマ病診断法の世界的規模のリングトライアルによる国際標準法の確立</p> <p>プロジェクト概要：ピロプラズマ病は、バベシアおよびタイレリアが宿主動物の赤血球に寄生して発熱、貧血、黄疸を引き起こし、世界的に家畜に大きな被害を与えている原虫症である。研究代表者らは、ピロプラズマ病に対する感度、特性、簡便性などに優れた血清診断法（ELISA, ICT）や遺伝子診断法（PCR, LAMP）を世界に先駆けて開発してきた。今回、海外の大学や研究所と連携してこれらの診断法の国際的な評価（リングトライアル）を行い、国際獣疫事務局（OIE）の標準法としての認定を目指す。更にこれらの情報を基盤に精度の高い国際的疫学データベースを構築し、ピロプラズマ病に対する日本の検疫体制の強化と国際的なピロプラズマ病対策の確立に貢献する事を目的とする。</p> <p>参加国：日本・タイ、モンゴル、インド、英国、カナダ、米国、メキシコ、アルゼンチン、南アフリカ</p> <p>予算見込み額・2740 万円</p>	五十嵐 郁男 横山 直明
平成 29 年度～令和元年度	ベトナム・フエ大学 タイ・カセサート大学 フィリピン・デラサール大学 スリランカ・獣医学研究所	<p>プロジェクト名：JSPS 拠点形成事業（アジア・アフリカ学術基盤形成型）・マダニ媒介原虫感染症の制圧に向けた国際共同研究拠点の構築</p> <p>プロジェクト概要：本事業では、これまでセンターが設立初期から形成して来たアジア諸国（ベトナム、タイ、フィリピン、スリランカ）の研究機関との交流ネットワークを活用し、新たにマダニ媒介原虫感染症の制圧に特化した国際共同研究拠点を構築することを目標とする。すなわち、ゲノム科学に立脚した、各流行地域に適したマダニとマダニ媒介原虫感染症に対する斬新な診断・治療・予防法の創出を通し、開発途上国における家畜生産性向上への貢献を目的とした国際ネットワークのプラットフォームを形成する。さらに、日本側及び相手国側の大学院生・若手研究者を積極的に本事業の中心で活躍させることにより、マダニ媒介原虫感染症の基礎・応用研究に精通したグローバルな若手研究者を育成する。</p> <p>参加国：日本・ベトナム・タイ・フィリピン・スリランカ</p> <p>予算見込み額：2000 万円</p>	玄 学南 横山 直明 福本 晋也 白藤 梨可 菅沼 啓輔

参加期間	相手国・研究機関名	研究プロジェクト等の概要	関係研究者名
平成 30 年度～令和 2 年度	トルコ・セルチユーク大学	<p>プロジェクト名：国際共同研究強化（B）・トルコにおける家畜バベシア症に対するゲノム疫学調査と実践的制御戦略の確立</p> <p>プロジェクト概要：バベシア原虫はマダニにより媒介される住血寄生虫である。家畜に重度の貧血・黄疸を主徴とする致死性感染症を引き起こし、地球規模で畜産業の脅威となっている。本研究では、古来よりアジア・ヨーロッパ・中東などの家畜交易中継地として知られるトルコに着目した。当国における遺伝的に多様な原虫集団を対象とし、ゲノム疫学的手法に基づく家畜バベシア症の流行実態の解明と、ゲノム情報に立脚した現地即応型のバベシア症制御戦略の構築を目指す。</p> <p>参加国：日本・トルコ 予算見込み額：1780 万円</p>	玄 学南 五十嵐 慎

④研究者の海外派遣状況・外国人研究者の招へい状況（延べ人数）

		平成 30 年度	
		派遣状況	招へい状況
事業区分	合計	68	58
	文部科学省事業	0	0
	日本学術振興会事業	23	9
	当該法人による事業	10	2
	その他の事業	35	47
派遣先国	① アジア	55	47
	② 北米	3	4
	③ 中南米	2	0
	④ ヨーロッパ	2	1
	⑤ オセアニア	4	1
	⑥ 中東	1	0
	⑦ アフリカ	1	5

⑤その他・国際研究協力活動の状況

事業名等	概要	受入人数	派遣人数
JICA 国別研修コース	平成 29 年度家畜感染症上級専門家育成コース	3	0
地球規模課題対応国際科学技術協力プログラム (SATREPS)	モンゴルにおける家畜原虫病の疫学調査と社会実装可能な診断法の開発	17	21
合計		20	21